

忘れられないツネさんのこと

ラジオネーム：マルメロ

ツネさんに出会ったのは私がお嫁に行く少し前。

夫の実家に行った時に、祖父母くらいの年格好で、みんなと

とても親しくしていたので、親戚のおばさんかと思ったら、

ご近所で一番の仲良しさんと紹介してもらいました。

出会ったばかりの頃は、自分のことを「オレ」と呼ぶ

ツネさんにビックリしましたが、バリバリとした

元気な語り口と合っているのがなぜか格好良く、

パークゴルフとカラオケが大好きで、いつも人に囲まれ、

地域の女性の代表のようなことにも携わり、

器の大きな人だなあと感じていました。

これは、田舎だから出来たことだと思うけど、ツネさんが

建てたお墓はうちと隣同士で、互いにお墓の草取りも

しているせいか、どちらも草ぼうぼうになることはなく、

それだけでもうれしく、有難く感じています。

私が結婚した時70代だったツネさんが90を過ぎ、

電動カートを運転して会いに来てくれた時、

「オレより若いもんが先の者として山ほどおる」

と言っていたのが今でも忘れられません。

私達の祖父母を見送り、舅を見送り、

数多くのご近所さんを見送ったツネさんの言葉には、

沢山の思いが込められていたと思います。

100歳を過ぎ、電動カートをあきらめ、パークゴルフも

カラオケも顔を出す数が減ったと聞いた頃、

自宅のベッドでそっと息を引き取ったツネさん。

その後、お墓の裏側に刻まれたツネさんの名前が

朱色から黒に変わり、お彼岸でお参りに行った時、

思わずツネさんのお墓の裏側からお参りしてしまい、

はっと気付いて表に回り直したことを

昨日のことのように思い出します。

ツネさんは向こうでも沢山の若い人に

囲まれているのでしょうかね。

リクエスト曲

＜ 幼い日に ／ 南じつせつ ＞